

**調査期間** 2014年10月16日～継続中  
**所在地** 秦野市寺山  
**時代** 近世、奈良・平安、縄文、旧石器  
**調査原因** 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査  
**遺跡位置** 小田急小田原線秦野駅から北方約3kmに位置する。



### 主な調査成果

平成27年度の調査では、前年度の調査で確認した近世以降の段切りの延長や溝状遺構などの耕作跡を発見しています。平安時代には掘立柱建物や竪穴住居などの集落が台地縁辺部に集中している様相が発見され、皇朝十二銭である「富壽神寶」や「油坏」と書かれた墨書土器、灰釉陶器、瓦、鉄製品などが出土しています。縄文時代では中期を主体とした土器が出土し、落とし穴や土坑が少数発見されています。また、南東部には土石流によって形成されたと推定される谷地形の一部が見つっています。後期旧石器時代では相模野台地 B1 相当層からは石器や礫群、炭化物の集中箇所を2箇所確認しています。



平安時代全景（空中写真）



油坏

墨書土器



皇朝十二銭「富壽神寶」



旧石器時代（B1相当層）遺物出土状況